

# 所管事務調査報告書

バス交通のあり方について



近鉄新田辺駅西口バスターミナル

平成29年3月

建設経済常任委員会

## 1 調査事件名

バス交通のあり方について

## 2 調査の目的

現状のバス交通の課題を探り提言を行う。(主として負担金路線の検証を行う)

## 3 調査結果

平成28年6月17日

建設部計画交通課よりバス交通等検証委員会の実施計画(市負担金路線の現状と対策素案)について報告



宝生苑バス乗り場

### ① 北部ルート

#### 【利用状況】

- ・「福祉バス」※としての機能(宝生苑経由)が満足に発揮できているとは言い難い。(徒歩、自家用車、乗り合わせ)
- ・既存バス路線(自主路線)の機能の弱い地域(一休ヶ丘、山手東、岡村、西八、松井、市役所)への貴重な交通手段である。
- ・平成30年度には関西外大の移転(英語国際学部・3000人)が予定されている。それに伴う穂谷バス停を起点としたバス路線網の動きにも注視、継続的に検証する必要がある。

#### 【対策案】

- ・当面の間はソフト対策を実施。バス運行時刻表の配布やルートマップなどの配布や回覧、バス利用促進等についての広報に努める。

### ② 中部ルート

#### 【利用状況】

- ・「福祉バス」※としての機能(常磐苑経由)が満足に発揮できているとは言い難い。
- ・その他方面の利用者数も少ない。主な目的地となる鉄道駅への直接的アクセスになっていない。便数が少なく利用しにくい状況である。

#### 【対策案】

- ・鉄道機能や他のバス路線(自主路線)の機能と重複する路線を廃止するなどバス路線経路の見直し、利用者が発車時刻などをわかりやすくするためパターンダイヤ化を検討する。

- ・バス運行時刻表の配布やルートマップなどの配布や回覧、バス利用促進等についての広報に努める。
- ・中部・南部ルートの一體的な利用やダイヤ編成(中部・南部ルートとの連絡、鉄道との接続)も視野に入れた検討を行う。

### ③ 南部ルート

#### 【利用状況】

- ・「中山間地域の高齢者移動支援」としての機能が満身に発揮できているとは言い難い。
- ・その他方面の利用者数も少ない。便数が少なく、(三山木～水取が6便/日、水取～高船が2便/日)利用しにくい状況にある。



普賢寺ふれあいの駅

#### 【対策案】

- ・利用者が発車時刻などをわかりやすくするためパターンダイヤ化を検討。
- ・バス運行時刻表の配布やルートマップなどの配布や回覧、バス利用促進等についての広報に努める。
- ・中部・南部ルートの一體的な利用やダイヤ編成(中部・南部ルートとの連絡、鉄道との接続)も視野に入れた検討を行う。

※「福祉バス」宝生苑、常磐苑利用者のために市が運行していたバス、平成22年4月にバス路線を開設することで廃止。

平成28年10月9日

草内区の役員の皆さんと「バス交通のあり方について」の意見交換会



草内公民館での意見交換会

- ・バスには乗ったことはない。駅までは徒歩、自転車、車での送迎で行く。
- ・親子同居世帯(近所に居住)が多く、高齢者に対しては家族の誰かが車で送迎している。
- ・近所に業務用スーパーやATM、コンビニもあり福祉施設の常磐苑もあり区民の大部分は、日常生活に困らない現状にある。

- ・バスルートやバス停が集落の西端にあり、遠く、便数も少なく、バスに乗らない習慣が根付いている。
- ・将来高齢化が進むとバスが必要になる。

平成28年11月7日

建設経済常任委員会管外研修（飯能市のバス交通施策視察研修）

【飯能市の取り組みの特徴】

① バス路線への補助

- ・バス路線の運行は絶対条件として位置づけ一部路線で補助金を支出（県・市で年間6,300万円、国が年間700万円＝市域を超えての運行）、通学定期に補助（中学、高校生へ350万円）。

② 観光やイベントによるバス利用の促進

- ・バス停を集合場所としたハイキング等の取り組み、バス停への木製ベンチの設置、ハイキングコースの整備、トイレの設置。
- ・西武鉄道とバスが乗り放題とする社会実験の実施。
- ・飯能ワンコインゾーンの実証実験（大人100円、小学生10円）。

③ バス路線をわかりやすく見せる取り組み

- ・バスルートマップの作製。
- ・公共交通ニュースの発行（月1回）、広報による啓発（年4回）。
- ・市職員の通勤時ノーマイカーデーの実施（毎月最低1回、市長は毎週水曜日路線バス登庁）。
- ・バスの乗り方教室の開催（小学3・4年生）。

④ バス利用のための利便性向上への取り組み

- ・乗客数に応じたバス停位置及び折り返し場を移動。

⑤ バス路線の見直し等

- ・市街地で循環路線への改編。
- ・地域要望による安全確保、施設の利用促進等の視点での見直し。



三山木駅前バス乗り場

【課題】

- ① 少子高齢化に伴う人口減少が急速に進み、通勤、通学など日常生活での利用者の減少が多く、地域公共交通の維持、確保は厳しい。
- ② 駅周辺に安価な駐車場が増加、自家用自動車の移動が主体となり、公共交通

の減少という「負のスパイラル」に陥っている。

③ 今後は、社会資源の活用として

- ・各企業・学校などで運行するバス、ワゴン車、山間地域の公立小学校のスクールバス等の活用に向けて研究検討していく。
- ・工業団地などへの路線バスの運行、駅前ロータリー周辺でのバス待ちスペースなどハード整備も必要である。

平成28年12月15日

京田辺市バス交通負担金路線における利用促進及び利便性向上策の検討について報告（建設部計画交通課）

① バス検証委員会としての方向性

- ・京阪バス（京田辺市内路線・田辺八幡線）

時刻表や路線図を知らせるなど、乗ってもらうためのソフト施策を実施する。

- ・奈良交通（東部循環線・三山木水取（高船）線）

ソフト施策とハード施策の両軸で利用促進を図る必要がある。

【2 路線共通】

- ・公共施設や病院など各施設利用を考慮したダイヤの設定を検討する。
- ・広報紙などによる情報発信を行い施設利用者などへの利用を啓発する。

【東部循環線】

- ・路線については、中部住民センターを経由する。
- ・JR 片町線との並走区間を見直す。
- ・バス停の位置を検討する。

【三山木水取（高船）線】

- ・高船までの便数を見直す。
- ・運賃の見直しを検討する。
- ・地域住民だけでなく来訪者等への利用を啓発する。



4 総括

- ① 旧集落地域ではバス交通の利用者が少ないが、今後高齢化が進む中では、移動手段としてのバス交通がより必要となり負担金路線の維持は重要である。市内全域でも高齢化が進んでおり市内全域のバス路線を維持するための諸施策の具体化が一層重要となる。
- ② 京田辺市のバス交通は、北部地域、南部地域とバス会社が2社に分かれてはいるが、利便性の高い鉄道交通網の拠点3駅とのバス交通網は整備されて

いる。南北地域各2路線は負担金路線として維持されているが、バス利用者が少ないのが現状である。また、南北を貫くバス路線の実現は厳しいものがある。

- ③ 宝生苑、常磐苑への利用者は少なく「福祉バス」としての機能を発揮しているとは言い難い。（「福祉バス」時代からバス利用者少なく、利用者は自動車、自転車、徒歩にて通う方が多い。）
- ④ 負担金路線によって市役所への利便性の向上が図られている。（北部地域からの市役所への利便性は向上している。）
- ⑤ 普賢寺地域のバス路線については利用者が少ないが、通院や買い物などで利用できるよう、便数、ダイヤなど工夫を要する。
- ⑥ バス利用者が少ないという課題についても検討を加え、地域住民以外の利用者の増加を図るという施策も検討する必要がある。
- ⑦ 各施設でのイベント開催時に、「〇〇に行くにはこのバスが便利です」と市民の皆さんにバス路線の案内を行う事も必要と考える。
- ⑧ 市として、区・自治会など市民との意見交換会を今後も引き続き実施し、市民のニーズに応えるバス路線の検討を引き続きすすめる必要がある。



## 5 調査の経過

### (1) 委員会の開催日

平成28年4月14日

所管事務調査事項について協議

平成28年5月17日

所管事務調査事項の決定

平成28年6月17日

バス交通検証委員会実施計画について報告（建設部交通計画課）

平成28年10月9日

草内区の役員の皆さんと意見交換

平成28年12月15日

バス交通検証委員会でのバス交通負担金路線における利用促進及び利便性向上策の検討状況について報告（建設部計画交通課）

平成29年1月17日

所管事務調査報告書に向けての協議

平成29年2月9日

所管事務調査報告書に向けての協議

平成29年3月8日

所管事務調査報告書決定

(2) 派遣

平成28年11月7日

埼玉県飯能市に調査のため委員7名派遣

**6 関係資料**

- 平成27年度京田辺市バス交通等検証委員会実施計画  
(平成28年2月8日 京田辺市建設部計画交通課)
- 飯能市のバス交通施策視察研修報告  
(平成28年11月7日 京田辺市議会建設経済常任委員会)
- バス交通について市民の方との意見交換会議事録  
(平成28年10月9日)
- 京田辺市バス交通負担金路線における利用促進及び利便性向上策の検討  
(平成28年12月15日 京田辺市建設部計画交通課)